

創政会研究研修報告書

1 研究研修項目

第13回全国市議会議長会研究フォーラム

2 研究研修場所

宇都宮市文化会館

(栃木県宇都宮市明保野町7-66)

3 実施年月日

平成30年11月14日～15日

研究研修報告書

実施年月日	平成30年11月14日(水)～15日(木)
研究研修場所	宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市)
研究研修項目	第13回全国市議会議長会研究フォーラム
参加者	創政会(伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、江端菊和、勝崎泰生)
研究研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「地域共生社会」をどうつくるか 自治体が直面する2040年問題として重量挙げ化と漏斗化する日本が挙げられ、就労の現役世代も力を発揮できない状況が進むと、「支える」「支えられる」の二分法では、現役世代対高齢世代比が1967年の10対1から1.5対1となり、実質的には0.5対1となる予想で「肩車」というよりは「重量挙げ」社会になる。人口減少がもたらすピンチをチャンスに、チャンスを現実にしていかなくてはならない。 これからの地域づくりの新しい目標は、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し地域を共につくっていく社会、いわゆる地域共生社会の実現を目指していかなければならない。 ・パネルディスカッション「議会と住民の関係について」 各パネリストから現状と今後の在り方について提案。 ・課題討議「議会と住民の関係について」 事例報告者からそれぞれ課題について報告。
所 感	<p>自治体の抱える大きな問題である人口減、少子高齢化による歳入減、人手不足などに的を絞り、ピンチからチャンスへ転換する3つの方法、困窮・孤立を超えて皆が人財のまちへ、移住しなくてもずっと出番のあるまちへ、必要縁、新しい家族縁、地縁でコンパクトな拠点を形成とわかりやすく説明がありスマートシティ化を進めてくコンセプトの参考になった。</p> <p>全ての議会の取り組みのまとめの中で、市民と寄り添う議会の姿勢の重要性、議会の見える化による主権者の政治参画など、まだ取り組まなければならない課題の多さを実感するフォーラムであった。また、議会の活性化をどのように図っていくのかは、やはり議員間での活発な意見交換が必要であり、本市においても、議員間の闊達な討議のさらなる実施をめざしたい。</p> <p>議会と住民の関係について、他市議会の先進事例を拝聴し、改めて本市議会においても考えることの必要性を感じたフォーラムであった。</p>